



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 3月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.193 2023.2

紹介内容 (2/1~2/28)

### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 仙台農改：御用聞き訪問を実施しています
  - 大崎農改：第2回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました
  - 登米農改：令和4年度登米地域農業経営セミナーを開催しました
  - 気仙沼農改：令和4年度枝もの用クロマツの出荷が終了しました
  - 仙台農改：令和4年度の水稲・大豆振り返り検討会を開催しました
  - 登米農改：第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
  - 石巻農改：パソコンによる農業簿記研修会を開催しました
  - 石巻農改：東松島市の農業法人にて水稲勉強会を開催しました
  - 栗原農改：栗原地域農業経営セミナーを開催しました
  - 仙台農改：JA新みやぎあさひな大豆栽培講習会が開催されました
  - 仙台農改：令和4年度農業法人ステップアップセミナーを開催しました
  - 気仙沼農改：四季成りいちごの先進的農業法人の視察研修会を行いました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
  - 美里農改：みやぎ農業未来塾「若手農業者のための農業機械研修」を開催しました
  - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「果樹農業後継者育成講座」を開催
  - 栗原農改：みやぎ農業未来塾「雇用農業者のための農作業安全基礎研修会」を開催
  - 大崎農改：みやぎ農業未来塾「令和4年度農業経営向上研修」を開催しました
  - 大崎農改：令和4年度宮城県農村青年教育会議で大崎4Hクラブ員が入賞しました
  - 石巻農改：女性農業者を対象とした「水稲栽培勉強会」を開催しました
  - 登米農改：「地域計画策定に向けた第2回ワークショップ」を開催しました
  - 仙台農改：みやぎ農業未来塾「正しい農薬の使い方・選び方」を開催しました
  - 美里農改：女性農業者向け「安全で快適な職場の作り方」研修会を開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - 仙台農改：水稲乾田直播栽培総合検討会を開催しました
  - 仙台農改：ほ場管理システムの導入に向けて研修会を開催しました
  - 仙台農改：令和4年度第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
  - 登米農改：RTK基地局アンテナを登米合同庁舎屋上に設置しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - 登米農改：りんごせん定講習会・防除暦講習会が開催されました
  - 気仙沼農改：南三陸町で今年度3回目となるシャインマスカット栽培研修会を開催しました
  - 登米農改：JAみやぎ登米ピーマン栽培講習会
  - 仙台農改：JA仙台根白石果樹生産組合のりんご研修会が開催されました
  - 大崎農改：やくらい土産センター野菜生産者に対して巡回指導を行いました

- 大崎農改：令和5年産ハウスなす栽培講習会が開催されました
  - 亘理農改：なとりの花（名取市産切り花）の産地をPRしています
  - 石巻農改：東松島市被災元地の梅のせん定を行いました
  - 仙台農改：園芸特産振興研修会を開催しました
  - 栗原農改：雨よけきゅうりの栽培講習会が開催されました
  - 大崎農改：やくらい土産センター、みやざきどどんこ館で花き研修会を開催しました
  - 大河原農改：そらまめの栽培講習会を開催しました
  - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会研修会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 栗原農改：大豆実績検討会を開催しました
  - 大崎農改：JA古川ブランド米研究会が開催される
  - 石巻農改：飼料用米・WCSの導入に関する成績検討会を開催しました
  - 登米農改：JAみやぎ登米環境保全米講演会が開催されました
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 気仙沼農改：「蔵の華」研修会を開催しました
- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 仙台農改：仙台地区鳥獣被害対策研修会が開催されました
  - 気仙沼農改：道の駅大谷海岸直売組合で研修会が開催されました
  - 気仙沼農改：大島ウエルカム・ターミナルで販売組合の研修会が開催されました
- ⑧ 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 美里農改：令和4年第2回美里地域農業普及活動検討会を開催しました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○御用聞き訪問を実施しています 令和5年2月2日 仙台農業改良普及センター



東日本大震災後、農業従事者の高齢化等により農家数が減少する中で、担い手確保や集落営農組織の経営発展のために多くの農業法人が設立されていますが、震災から10年以上経過した現在、多くの法人は経営承継や機械更新、人材不足、資材費高騰など様々な経営課題を抱えています。

そこで、普及センターでは重点活動の一つとして、各地域の中核的な46法人を対象として「御用聞き訪問」を実施しています。法人の経営課題等を把握し、技術支援や各種情報提供等を通じて各法人の経営課題に応じた支援を行うことが目的です。この「御用聞き訪問」をもとに、経営改善を図る法人も見受けられるようになりました。

普及センターでは、今後も「御用聞き訪問」を実施し、地域農業をけん引する農業法人の経営安定化・高度化を支援していきます。

#### ○第2回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました

令和5年2月3日  
大崎農業改良普及センター



令和5年2月3日に第2回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、当所の活動が農業者や地域住民に理解され、効率的で

実効性のある普及指導活動を推進するために外部委員から御意見を頂くものです。

今回は、プロジェクト課題 No.2「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」について、動画や写真を用いて活動内容を紹介しました。委員からは資材費が高騰している中で、比較的高単価による取引が期待できる冬越し囲い栽培の普及活動について評価していただきました。

その他のプロジェクト課題や普及計画に関する意見交換では、各成果の地域へのさらなる波及や、販売面を考慮した関係機関との連携について御意見を頂きました。地域課題の掘り起こしや、関係者とともに計画的に課題解決に取り組むことの重要性、着実に所得確保に繋がる普及活動が改めて重要と感じました。今後の普及活動に活かしてまいります。

#### ○令和4年度登米地域農業経営セミナーを開催しました

令和5年2月6日  
登米農業改良普及センター



令和5年10月1日から消費税のインボイス制度（適格請求書保存方式）が開始される予定であり、農業経営への影響が懸念されています。そこで、農業分野におけるインボイス制度とその対応を学ぶため、令和5年2月2日に「令和4年度登米地域農業経営セミナー」を開催し、農業者や直売所関係者等43名が受講しました。

講師として農業分野の税務指導経験が豊富な三井信一税理士を迎え、「インボイス制度導入による農業経営への影響と対策」と題して、制度の基本的な仕組みから今後どのように対応していくべきかまで事例を交えながらお話をいただきました。出席者からは説明が具体的でわかりやすかったといった声が聞かれ、インボイス制度に対する理解が深まったようでした。

普及センターでは今後も農業経営の発展に向けて支援してまいります。

#### ○令和4年度枝もの用クロマツの出荷が終了しました

令和5年2月7日  
気仙沼農業改良普及センター

株式会社南三陸 Pine Pro が町内で栽培した、枝もの用クロマツの令和4年度分出荷が終了しました。

収穫は10月17日からスタートし、12月15日で完了しました。市場への出荷は11月30日から始まり12月19日まで続けられました。

クロマツは松飾等の材料として年末に需要が多いため、収穫から約50日は倉庫に保管しておき、11月下旬から一気に出荷されます。

今年度収穫したクロマツは、平成31年4月に播種・定植されたもので、収穫面積は80a、そのうち特に高値で売れる若松は50aから収穫し、30aから仏花等で使われる小松を収穫しました。

気になる出荷本数ですが、若松が約16万本、小松が約15万本、合計31万本の出荷で、全量が大阪と徳島のなにお花いちばに出荷されました。

ほ場での収穫と枝葉除去の調製作業には20名、出荷のための選別作業には10名のアルバイトを雇い、2か月間収穫・出荷作業を続けました。

現在、天候に左右されないように、枝葉除去の調製作業等を屋内で作業できるように、出荷調製施設を建設しています。

普及センターでは、今後もクロマツ生産から出荷までを総合的に支援を行っていきます。



## ○令和4年度水稻・大豆振り返り検討会を開催しました

令和5年2月10日

仙台農業改良普及センター



令和5年1月27日(金)に、仙台市内で土地利用型農業を営む農事組合法人あきう生産組合において、令和4年度の水稲・大豆振り返り検討会を開催しました。

当組合は水稲・大豆・そばの栽培を行っており、令和4年度は、水稲の中干しや収穫時期の作業実施のため生育調査と、大豆の肥料コスト低減を目的に安価な肥料を使った試験ほを設け、その効果について検討しました。その結果、水稲については各作業が適期に実施され、反収が増えるとともに品質の良いものとなりました。大豆については、安価な肥料の施用によるコスト低減効果が確認されました。

普及センターでは、今後も農業法人等の経営安定に向けた支援を継続していきます。

## ○第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました

令和5年2月10日

登米農業改良普及センター



普及センターでは普及活動の改善を目的に、課題設定や計画策定、活動状況等について外部委員から意見を求める普及活動検討会を開催しており、令和5年1月31日(火)に今年度2回目の検討会を開催しました。

今回は、令和4年度普及指導計画の中から今年度で完了するプロジェクト課題活動について、現在策定中の令和5年度普及指導計画からは、普及指導方針や新規プロジェクト課題・重点活動の計画について

て検討いただきました。

完了課題の「水稲乾田直播栽培技術の向上と安定生産」について委員からは、「コスト削減効果とリスク増大の程度に関する比較が必要」、「品質や食味の検討は継続してほしい」といった意見をいただきました。

令和5年度からの新規プロジェクト課題「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」については、「粒状肥料でも検討してはどうか」、「ブランド化も考えてほしい」といった意見をいただきました。さらに、新規重点活動の「地域計画」や「耕畜連携」関連活動についても様々な意見をいただきました。

普及センターでは、今回各委員からいただいた意見や提案を参考に、効果的な普及活動の推進に努めていきます。

### ○パソコンによる農業簿記研修会を開催しました 令和5年2月16日 石巻農業改良普及センター



石巻管内では自らの経営改善と経営管理能力の向上を目指す若手農業者や女性農業者が多く、2月7日に今年度第2回目の農業簿記ソフトを利用した簿記記帳に関する研修会を開催しました。現在手書きで複式簿記に取り組んでいる方やパソコン簿記に取り組んでいて青色申告も行っているが、改めて決算処理について学びたい方などが参加されました。

今回の研修会では、決算書の作成、年度繰り越し処理について等の実習を行いました。

講師のソリマチ株式会社門田リーダーのわかりやすい説明により、初めての方も含めて入力処理等について全員が滞りなく操作することができ、今回の内容について十分に御理解いただけたものと思われま。また、今回の研修会をきっかけに、パソコン簿記を導入する参加者もいました。

普及センターでは、今後も若手農業者等を中心とした経営管理能力の向上に向けた支援を行っていきます。

### ○東松島市の農業法人にて水稲勉強会を開催しました 令和5年2月22日 石巻農業改良普及センター

令和5年2月14日に管内の農業法人「株式会社めぐいと」の社員を対象に水稲勉強会を開催しました。当法人は東松島市で約180haを耕作する大規模土地利用型経営体です。

本勉強会では法人からの要望により、水稲栽培における肥培管理、水管理、令和4年産米の作柄についての3つのテーマで行いました。施肥の種類や特性、水管理のポイントと高温対策、令和4年産米の作柄の解析と次年度に向けての対策などを説明しました。アンケートの回答からは「普段無意識に行っていることを再確認できて良かった」、「全体的に見やすく分かりやすい解説で良かった」などの感想が寄せられました。

当普及センターでは、地域農業の維持・発展に向けて、今後も管内の農業者や農業法人に対して勉強会開催・栽培指導など各種支援を行っていきます。



### ○栗原地域農業経営セミナーを開催しました 令和5年2月22日 栗原農業改良普及センター



令和5年2月14日（火）、県栗原合同庁舎を会場に、「農業経営セミナー」を開催しました。

今回のセミナーには、管内の農業法人・関係者等を合わせて29人が参加し、若い人材の確保と定着率向上の手法を学ぶことを目的に、株式会社スリーデイズ代表取締役の伊藤理恵様より、「学生に選ばれる農業法人とは」と題し、ご講演いただきました。

参加した農業法人は、地域の方々に自社の魅力を知ってもらえるようPRを図ることが大事であり、また、やりがいや地域貢献などが離職率低下のキーワードであること、雇用確保のためには中長期の経営戦略が重要であることなどを改めて理解したよう

でした。

当普及センターでは、農業法人の経営向上のため、今後も継続して支援していきます。



### ○JA 新みやぎあさひな大豆栽培講習会が開催されました

令和 5 年 2 月 22 日

仙台農業改良普及センター



令和 5 年 2 月 16 日、JA 新みやぎあさひな統括営農センター主催の大豆栽培講習会が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、JA ではこれまで講習会の開催を見送ってきましたが、今回は久しぶりの開催とあって、会場には約 50 名の生産者が集まりました。

講師に古川農業試験場の研究員を迎え、「令和 4 年産大豆の作柄概況」及び「多収栽培のためのポイント」について講義をしていただきました。特に後半の講義では、研究成果を紹介しながら、ほ場の砕土や播種など基本的な作業の重要性について説明があり、生産者は熱心にメモを取りながら、聞き入っている様子でした。また、質疑応答の時間にも活発に質問が出されるなど、生産者の増収に向けた生産意欲が感じられる講習会でした。

普及センターでは、今後も JA と連携して大豆の生産性向上を支援していきます。

### ○令和 4 年度農業法人ステップアップセミナーを開催しました

令和 5 年 2 月 28 日

### 仙台農業改良普及センター



普及センターでは、仙台市農業振興課と共催で「農業法人ステップアップセミナー」を開催しました。毎年恒例の当セミナーですが、今年度は「人材募集や雇用環境整備を考えよう」をテーマに、令和 5 年 2 月 10 日と 16 日の全 2 回コースで開催し、当普及センター管内の 11 法人から 12 名の参加がありました。

講師として、松倉社会保険労務士事務所の松倉恵子特定社会保険労務士をお招きし、選考基準や面接のポイント、採用後のサポート等について講義とワークショップを行っていただきました。参加者からは、「自分や組織を見直すきっかけとなった」、「セミナーの内容を法人内で共有したい」などの声をいただきました。

普及センターでは、今後も法人の組織力向上のため支援を実施してまいります。

### ○四季成りいちごの先進的農業法人への視察研修会を行いました

令和 5 年 2 月 28 日

気仙沼農業改良普及センター



令和 5 年 2 月 15 日、四季成りいちごの先進的農業法人である株式会社リアスターファームへの視察研修会を岩手県大船渡市で開催しました。この研修会は、令和 5 年から四季成りいちご栽培を開始する有限会社水山養殖場の畠山専務と社員 1 名が参加し、四季成りいちごの生産開始に向けて栽培技術への理解が深まりました。

初めに、(株)リアスターファームの太田代表取締役より栽培の現状や出荷体制について紹介いただきました。(株)リアスターファームでは、高度な栽培技術と専用の栽培施設を用いて 2 年 8 季どり栽培を実現しており、周年出荷しているとのことでした。ま

た、完熟状態で実需者へ届けるため、選果場や予冷庫を低温管理するなど品質管理が徹底されていました。加えて、ほ場ごとに「作業進捗状況管理表」を設置しており、毎日の作業を項目ごとに記録することで、従業員同士の引継ぎが円滑に行われるよう工夫がなされていました。

(有)水山養殖場のいちご生産開始に向けて太田代表取締役より、業務用規格を遵守して出荷できるよう栽培管理を徹底すること、地元を中心に販路を確立させることの2つが特に重要であるとの感想を頂きました。

参加した(有)水山養殖場の畠山専務と社員からは、栽培だけでなく収穫調製や労務管理など参考になることが多かったため、今後の栽培開始に向けて生かしていきたいとの声が聞かれました。気仙沼普及センターでは、(有)水山養殖場のいちごの生産体制確立に向けて、引き続き支援していきます。



## ②新たな担い手の確保・育成

### 〇みやぎ農業未来塾「若手農業者のための農業機械研修」を開催しました 令和5年2月3日 美里農業改良普及センター

新規就農者や女性農業者が、基本的な農業機械であるトラクターの基本操作やメンテナンスについて学ぶことで、農業生産の効率化、農作業安全の知識や技能を習得することを目的として、令和5年1月17日に農業機械研修を開催しました。

本研修会は大崎農業改良普及センターと共催し、両管内より女性農業者6名を含む20名が参加しました。宮城県と包括連携協定を締結しているヤンマーアグリジャパン(株)東北支社の御協力のもと、講義と実習を行いました。

最初に、農業機械による排水対策について講義を受けた後、屋外に移動し、トラクターの基本操作とアタッチメントの着脱、メンテナンス方法の実習を行いました。

講師から、アタッチメント着脱において農作業事故が起きやすいポイントについて解説があり、参加者は真剣に聞き入っていました。その後、実際にアタッチメント着脱を行い、安全な操作手順を確認しました。

メンテナンスの実習では、農作業後の点検や手入れを行うことで、安心して使えるようになり、機械の寿命が延びることなどを、部品を確認しながら学び

ました。最後に「農作業安全」の講義が行われ、農作業事故の事例や農業機械に関する関連法律について説明がありました。

参加者からは熱心に質問が出され、農業機械に関する関心の高さが伺われました。

普及センターでは、今後も若手農業者のスキルアップや交流を促進し、早期の経営安定を支援します。



**○みやぎ農業未来塾「雇用農業者のための農作業安全基礎研修会」を開催**  
令和5年2月8日  
栗原農業改良普及センター

令和5年1月31日に栗原合同庁舎において、「雇用農業者のための農作業安全基礎研修会～みやぎ農業未来塾 in くりはら」を開催しました。

本研修会は、新規就農者（就農5年目まで）の半数を占める雇用就農者を対象に、共通の課題である農作業安全に関する基礎知識の習得と参加者同士の交流を図る目的で開催し、6名が参加しました。

最初に普及センター職員が農林水産省の「令和4年度農業者向け農作業安全研修ガイドライン」に基づき、「農林水産業・食品産業の産業安全のための規範」の映像資料を活用して講義を行い、その後「ヒヤリ・ハット体験と防止策について」意見交換を行いました。参加者からは「自分にも思い当たる事例が多く、参考になった」「他の方の意見が聞けて有意義だった」などの意見が聞かれました。また、今後実施してほしい研修としてSNS活用術、農業機械の運転・メンテナンス、栽培管理技術等があげられていました。

普及センターでは、今後も技術研鑽や交流等を通じて、若手農業者の育成に努めてまいります。



**○みやぎ農業未来塾「令和4年度農業経営向上研修」を開催しました。**  
令和5年2月20日  
大崎農業改良普及センター



令和5年2月2日に、令和4年度みやぎ農業未来塾「農業経営力向上研修」を開催しました。就農1年目から5年目までの若手農業者を中心に、12月か

らシリーズで行ってきた研修の最終回です。宮城県担い手育成総合支援協議会から、鈴木労務経営コンサルタントの鈴木中小企業診断士を講師として派遣していただき、経営分析について研修を行いました。損益計算書の見方や、決算書の見方、各種経営指標、損益分岐点の計算方法など、多岐にわたる内容だったが、実例を交えながらわかりやすく説明していただき、新規就農者の方もメモをとりながら真剣に講義を受講していました。

受講者からは、「今まで受けた研修の中で一番わかりやすく、面白かった」「貸借対照表や損益計算書の見方がわかって参考になった」等の感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も若手農業者の経営の早期安定化支援に取り組んでまいります。

**○令和4年度宮城県農村青年教育会議で大崎4Hクラブ員が入賞しました**  
令和5年2月20日  
大崎農業改良普及センター



令和5年2月4日に、令和4年度宮城県農村青年教育会議が開催されました。この会議は、宮城県の中核的担い手となる青年農業者が、日ごろ直面する課題の解決方法を探りながら得た成果を互いに発表、情報交換することで、農業と農村の発展に資することを目的としています。

大崎地区からは、事前に地区の農村青年教育会議を行い、プロジェクト発表1名、青年農業者の主張1名、それぞれ代表者として選出しました。

県大会では、見事、プロジェクト発表の部、青年農業者の主張の両部門で最優秀賞を受賞しました。受賞した2名は、今年秋に行われる東北大会へ出場します。

普及センターでは、今後も青年農業者の活動支援に取り組んでまいります。

**○女性農業者を対象とした「水稻栽培勉強会」を開催しました**  
令和5年2月20日  
石巻農業改良普及センター

令和5年2月13日に石巻農業改良普及センターでは管内の女性農業者グループ「ベジ☆hope」を対象とした水稻栽培勉強会を開催しました。ベジ☆hope



は、水稻や野菜の栽培などを行う若手女性農業者で構成され、農業者同士のつながりをつくることや生産技術の向上を目指し活動しています。

今回の勉強会は、水稻の栽培に携わる会員が、自分で判断して適切な栽培管理ができることを目的として開催され、育苗と水管理における基本的な考え方や作業計画の立て方などについて、当普及センター職員が講師となって説明しました。例えば、育苗では病害発生抑制のために温度管理が重要であることや、田植え時期から逆算して育苗計画を立てる練習など、これからの作業に役立つ内容について解説しました。参加者からは、「丁寧に教えてもらえて勉強になった。また作業時期ごとに開催してほしい。」との感想や、様々な質問が飛び交う活発な勉強会となりました。普及センターでは、引き続き女性農業者の要望を伺いながら、学びの場を提供していく予定です。



**○「地域計画策定に向けた第2回ワークショップ」を開催しました**  
令和5年2月22日  
登米農業改良普及センター

令和5年2月7日、登米市中田農村環境改善センターにおいて、地域計画策定に向けた第2回ワークショップを開催しました。このワークショップは、各地域の農業の課題や将来像などを網羅した地域計画の作成に向けた話し合いを行うとともに、次年度以降に関係者が地域計画を作成する際の参考となるよう、中田地区をモデル地区として当事務所が主催したものです。

当日は、登米市中田町石森地区と浅水地区の2地区の農業者16人と中田町内農業委員や関係機関職員等28人が参加し、まず県農業振興課担当者から地域計画の今後の策定手法などについて説明が行われた後、(株)ノースエイムの宮村代表を講師として、地区ごとにグループ分けされた農業者や農業委員等が話し合いを行いました。

各グループには、サブリーダーとして普及センター職員と登米市職員を配置し、『地域農業の課題・現状抽出』『各地域の将来のあり方』『課題解決策』などについて話し合いを行いました。

また、関係機関職員はオブザーバーとして各グループの話し合いを見守り、その進行などについて確認していました。

普及センターでは、地域計画策定に向けた各地域の話し合いが円滑に進むよう支援を継続していきます。



**○みやぎ農業未来塾「正しい農薬の使い方・選び方」を開催しました**  
令和5年2月24日  
仙台農業改良普及センター



令和5年2月20日、宮城県仙台合同庁舎において、みやぎ農業未来塾「正しい農薬の使い方・選び方」を開催し、新規就農者や就農希望者、管内農業法人の従業員など28名が参加しました。

研修会では、公益社団法人緑の安全推進協会から講師をお呼びし、農薬の種類や法律による規制、使用方法、RACコード、農薬の処分方法など、農薬の安全使用についてのお話をいただきました。その後、普及センター職員から、病害虫の特定方法と、植物と病害虫に適した農薬の検索方法について情報提供を行いました。

参加者からは「農薬の知識はインターネットや本から得ていたが、専門家の話が聞けて勉強になった。」「農薬の検索が自分自身でできたり、疑問に思っていたことが解決できてよかった。」などの感想がありました。

また、アンケートの結果では、土づくりや土壌肥料を勉強したいとの意向もあったことから、今後の研修会に生かしたいと思います。

普及センターでは今後も、新規就農者や就農希望者を支援していきます。

### ○女性農業者向け「安全で快適な職場の作り方」研修会を開催しました 令和5年2月28日 美里農業改良普及センター

雇用を導入している経営体では、女性農業者が雇用管理を担うケースが増えてきており、労務管理などのマネジメント能力の向上が必要となっています。また、農業における労働災害の発生件数は年々増加しており、安全で働きやすい職場づくりの取り組みが重要となっています。

美里農業改良普及センターでは、一昨年、昨年に引き続き「女性農業者のためのマネジメント講座」を企画し、本年は「安全で快適な職場の作り方」をテーマに社会保険労務士法人プログレート仙台オフィス庄司弥生社会保険労務士を講師に招き、2月10日に研修会を開催しました。

講師から、「安全と快適」は人の生命にかかわる要素であり、事業者にとって重要な責務であることから、効率的な「安全で快適な職場の実現」を目指すには、従業員が主体となって現場に落とし込むことが必要であることを分かりやすく説明がありました。

そして、改善活動のポイントとして、リスクアセスメント、5S活動、高年齢労働者の災害防止対策の3つを取り上げ、現場で取り組みやすい活動の紹介がありました。

講義のあと、参加した女性農業者から、農作業でヒヤリとした事例について発言があり、講師から、「女性は危機に関する感度が高いので、農作業に潜む危険性を察知しやすい。主体となって安全管理に取り組んで欲しい。」と励ましの言葉がありました。

普及センターでは、今後も資質向上研修等を通し、女性農業者の活躍を支援します。



### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

### ○水稲乾田直播栽培総合検討会を開催しました 令和5年2月2日 仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、令和4年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、これまでに5回「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催しました。また、令和4年作のまとめとして、令和5年1月19日に「水稲乾田直播栽培総合検討会」を開催し、農業者13人が出席しました。

普及センターからは、乾田直播ほ場での生育調査結果及び収量調査結果の報告を行い、農研機構東北農業研究センターからは、雑草防除及び春先のほ場準備についての講義がありました。農業者の多くが令和4年作における課題として挙げた「雑草防除」については、具体的な除草剤名と使用上の注意等の関心が高く、熱心にメモをとる参加者も見られました。また、「ほ場準備」については、ほ場条件（土質等）に応じた各対策の説明があったため、次期作から乾田直播栽培に取り組む参加者にも参考になったようでした。

講演後には、お互いの耕種概要を紹介しながら、具体的な栽培管理について意見交換を行いました。これまでの勉強会では仙台沿岸部からの参加者が主でしたが、今回の検討会では仙台西部や黒川地域からの参加もあり、これまで以上に幅広い取組事例をお互いを知ることができ、有意義なものになりました。

普及センターでは、生産者同士のネットワークづくりを推進しながら、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

### ○ほ場管理システムの導入に向けて研修会を開催しました 令和5年2月3日 仙台農業改良普及センター

農事組合法人泉（仙台市泉区）は大豆・水稲を経営する土地利用型法人であり、500筆以上のほ場を管理しています。法人では、ほ場のデータを、主に紙媒体の地図を使用して管理・記録しており、従業員への作業指示も紙で行うことに煩雑さを感じていました。また、指示の行き違いによる作業ミスが発生も懸念しており、ほ場管理システムの導入に関心を示していました。

普及センターでは、法人から課題解決の相談を受

けて、「みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業」（専門家派遣）を活用した研修会の開催を提案したところ、前向きな回答があり、令和5年1月20日に研修会を開催しました。

当日は、講師の株式会社キセキ東北から、ほ場管理システム「アグリノート」の機能や活用方法を学んだ他、実際にスマートフォンでシステムの操作方法を確認しました。

研修会の前は、導入しても使いこなせるだろうかといった不安が大きく、一歩を踏み出せない状況でしたが、導入後の活用イメージが湧き、経営に生かせる有効なツールだと認識した様子でした。

普及センターでは、今後も法人経営の効率化を支援していきます。



#### ○令和4年度第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました 令和5年2月13日 仙台農業改良普及センター



令和5年2月3日、第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、仙台普及センターの活動が農業者や地域住民に理解され、効率的で効果の上がる活動となるよう、外部の検討委員に御意見をいただくものです。

検討会では、「シャインマスカットの産地形成」、「法人によるえだまめ栽培定着」、「秋保の農業法人営農支援」、「水稲乾田直播栽培による省力化」の4つのプロジェクト課題について検討しました。検討委員からは、多岐にわたって支援し、それぞれに成果が上がっていることや対象者へ実績が見える化することや、振り返りを行っていることなどで活動内容を共有化していることが良いと評価を受けました。

今後、10年後を見据えて、営農が続けられるような視点での活動や、担い手や新規就農者の確保・育成、アグリテック等についても関係機関で情報の共有化

を図り、現場の支援を強化してほしいとの意見もありました。

普及センターでは、委員の方々からいただいた御意見を参考にして、より良い普及活動を実施してまいります。

#### ○RTK基地局アンテナを登米合同庁舎屋上に設置しました 令和5年2月20日 登米農業改良普及センター

宮城県では、トラクターや田植機、コンバインの自動操舵などを高精度で実現するために不可欠なRTK基地局を県内7か所に設置することになりました。当登米地域では県登米合同庁舎屋上にRTK基地局を設置することになり、令和5年2月14日に工事が完了しました。

この基地局と自動操舵システムを活用することにより、経験が少ない作業員でも誤差2～3cm程度の高精度なトラクター作業などが可能となり、作業の迅速化・省力化や負担軽減などのメリットがあるとされています。今後、令和5年4月1日から正式な配信サービスや利用者募集が開始される予定です。

普及センターでは当基地局の活用を推進し、スマート農業技術により農業者の経営改善が進むよう支援を行ってまいります。



#### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○りんごせん定講習会・防除暦講習会が開催されました 令和5年2月1日 登米農業改良普及センター



令和5年1月24日に、JAみやぎ登米りんご生産部会の「せん定講習会・防除暦講習会」が開催さ

れ、部会員 17 人が参加しました。

まず、当日の午前中は、中田町八幡山のりんご園地にて「せん定講習会」が行われ、県農業・園芸総合研究所職員を講師に、わい性台木の若木「ふじ」の他、定植 6 年目のジョイント樹形のせん定方法について実技講習を行いました。当日は寒波が襲来する中での講習となりましたが、ジョイント樹形の主幹間伐の時期や花芽維持のためのせん定方法など、参加者から多くの質問があり、充実した講習会となりました。

午後には「病虫害防除暦講習会」が行われ、当普及センターから病虫害の発生状況など令和 4 年産の振り返りや令和 5 年産の防除暦について説明しました。昨年は開花期の降雪、一部地域で幼果期の降雪、7 月の大雨があったものの生産者の努力により良い出来となり、次年産も引き続き高品質な果実生産ができるよう参加者は熱心に耳を傾けていました。

当普及センターでは、安定したりんご生産ができるよう継続して支援していきます。

### ○南三陸町で今年度3回目となるシャインマスカット栽培研修会を開催しました 令和 5 年 2 月 1 日 気仙沼農業改良普及センター

令和 5 年 1 月 17 日に、南三陸町において今年度 3 回目となるシャインマスカット栽培研修会を開催し、管内のぶどう生産者 13 名が参加しました。

宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹部の庄子雅和研究員を講師に迎え、冬季の重要な栽培管理であるせん定についての研修を行いました。講師から短梢せん定方法について実演を交えながら説明があった後、参加者によるせん定の実習を行いました。参加者からはせん定やその他の栽培管理についても多くの質問が寄せられ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。



### ○JAみやぎ登米ピーマン栽培講習会 令和 5 年 2 月 1 日 登米農業改良普及センター

令和 5 年 1 月 27 日、JA みやぎ登米ピーマン栽培講習会が開催され、生産者 12 人が参加しました。

講習会では、全農みやぎ及び JA みやぎ登米から、

それぞれ令和 4 年産の出荷実績に関して説明があり、講師の種苗会社から各生育段階における栽培管理について実際の写真を用いた解説がありました。普及センターからは、育成期間中のかん水の重要性について解説したほか、省力化につながるかん水システムについて情報提供を行いました。

登米地域でのピーマン栽培は始まったばかりですので、おいしいピーマンをより多く出荷できる産地となるよう、生産技術定着に向けた支援を行ってまいります。



### ○JA 仙台根白石果樹生産組合のりんご研修会が開催されました 令和 5 年 2 月 2 日 仙台農業改良普及センター



JA 仙台根白石果樹生産組合のりんご研修会が令和 5 年 1 月 27 日に開催され、部会員 5 人が参加しました。

午前のせん定講習は、部会員のは場において、農業・園芸総合研究所果樹チーム職員と仙台農業改良普及センター職員が講師となり、受光態勢の改善や薬剤のかかりやすさ、作業性の向上等を目的とした枝の間引きと小枝の整理方法について実技指導しました。また、数年後を見越した枝のせん定方法等についても生産者と活発に意見交換がなされ、有意義な研修となったようです。

午後は、JA 仙台根白石支店で次年度に向けた防除暦の検討を行いました。普及センター職員が講師となり、生育概況の説明や当地区の防除時期や病虫害発生状況の振り返りを実施し、今年度発生が多かった褐斑病の対策を反映させた次年度の防除暦を策定しました。

普及センターでは、今後も情報提供や技術指導を行い、管内のりんごの安定生産を支援していきます。

### ○やくらい土産センター野菜生産者に対して巡回指導を行いました 令和5年2月6日 大崎農業改良普及センター



やくらい土産(どさん)センターは農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地域である加美町の活性化に寄与してきました。しかし、新型コロナウイルスの影響等でここ数年の売り上げは減少傾向にあるため、普及センターでは、売り場づくりや販売品目の改善に向けた取組を支援しています。

令和5年1月17日と20日には、新品目の導入を検討しているさんちゃん会野菜生産者5人に対して、栽培技術や肥培管理などを指導する巡回を行いました。苗の入手方法や病害虫の対処方法について分からないと感じている生産者が多いようでした。また、栽培講習会の開催や接ぎ木方法を教えて欲しいとの要望もあり、生産意欲の高さがうかがえました。

当普及センターでは、今後もやくらい土産センターを拠点として、中山間地域の活性化に向けた支援を行っていきます。

### ○令和5年度産ハウスなす栽培講習会が開催されました 令和5年2月6日 大崎農業改良普及センター



大崎管内の古川地域は、県内一のなす産地です。昨年度から、単為結果性の新品種の栽培に取り組む生産者が増えていますが、適期の整枝せん定作業にかかる労力が大きいため、安定的に収量を確保するこ

とが課題となっています。そこで、当普及センターでは一本つる下ろし栽培の有効性について検証しています。

令和5年1月24日には令和5年産ハウスなす栽培講習会が開催され、当普及センターからは一本つる下ろし栽培の検証結果について情報提供しました。単為結果性品種との相性も良いことが分かり、作を通して安定的に収量を確保することができました。生産者からは、「苗代はかかるが、作業はかなり楽になり、収量も伸ばせそうだ」との感想をいただきました。

当普及センターでは、今後も、古川地域で生産されるなすの品質向上に向けた支援を行っていきます。

### ○なとりの花(名取市産切り花)の産地をPRしています 令和5年2月6日 巨理農業改良普及センター

名取市は、カーネーションの切り花生産が年間約300万本と東北一の産地です。加えて、ばらをはじめとした他品目の切り花生産も盛んな地域です。

例年、1月から2月は花の需要が減少しますが、この時期に市内で生産される切り花は、冬の寒さで茎葉が締まり、発色も良く、しっかりとした品質に仕上がります。

旬の時期に、地元消費者に「なとりの花」(名取市産切り花)を広く知ってもらうために、名取市花卉生産組合が産地PRを開始しました。

JR名取駅東西自由通路の展示パネルに、市内で生産されている切り花品目や「なとりの花」の取扱生花店を紹介するポスターを掲示するとともに、2月中旬に名取市役所に切り花の展示を行います。

花き生産者、生花店、関係機関が連携して地元花き産地の知名度を高め、消費拡大を図ろうとする取組であり、地域内で特産品を盛り上げようとする機運が高まっています。



### ○東松島市被災元地のうめのせん定を行いました 令和5年2月6日 石巻農業改良普及センター

令和5年1月31日(火)に、東松島市が令和の果樹の花里構想として野蒜地区の被災元地の一部に植栽しているうめのせん定を行いました。

普及センター職員が、管理を担う市内農業法人の

代表及び社員に対して、主枝先端は1本とし外芽で切り返しを行うことなどを実演して、作業を進めました。

本年は、前年の切り返しせん定により短果枝が発生しており、ある程度、開花・結実が見込まれます。

普及センターでは、今後も病害虫防除などの技術支援を行っていきます。



### ○園芸特産振興研修会を開催しました 令和5年2月13日 仙台農業改良普及センター



令和5年2月1日、せんだい農業園芸センターを会場に、当普及センター主催で「園芸特産振興研修会～肥料価格の高騰を乗り切ろう！～」を開催し、管内の農業者やJA等関係者含めて42名が参加しました。

近年、肥料や農薬などの資材価格が高騰し、農業経営に深刻な影響を与えています。そこで、本研修会では、水田転作による露地園芸作物を対象として、「肥料コスト低減につながる技術」をテーマに、雪印種苗株式会社植物機能性研究グループ係長の和田美由紀氏と県農業・園芸総合研究所園芸環境部の瀧上主任研究員に御講演をいただきました。

和田氏からは、緑肥作物の活用による土づくりと肥料低減、土壌病害虫の抑制について、また、瀧上主任研究員からは、土壌分析を活用した減肥や混合堆肥複合肥料の活用等について丁寧に御説明をいただきました。質疑応答では、緑肥作物導入における品種選定のポイント、えだまめとマメ科緑肥作物の連作体系についてなど、農業者から多くの質問が出され、充実した研修会となりました。

普及センターでは、今後も研修会等の開催を含め、県の園芸振興のために支援を継続してまいります。

### ○雨よけきゅうりの栽培講習会が開催されました 令和5年2月15日 栗原農業改良普及センター

令和5年2月2日(木)、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会「雨よけきゅうり栽培講習会」がJA新みやぎ志波姫支店で開催されました。部会員16名のほか、JA新みやぎ、種苗メーカー2社、普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、種苗メーカーから雨よけ栽培に適した品種の紹介と、苗づくりや定植前後の温湿度管理などの栽培のポイントについて説明がありました。次に普及センターから、耕種的防除や物理的防除を組み合わせた総合的な病害虫管理方法及び、春先から発生するきゅうりの病害虫の特徴と対策について説明しました。参加者は、定植時の栽培管理、防除の重要性について、知識を深めたようでした。

普及センターでは、同部会員のきゅうりの栽培技術向上に向けて、今後も継続して支援してまいります。



### ○やくらい土産センター、みやぎきどどんこ館で花き研修会を開催しました 令和5年2月20日 大崎農業改良普及センター



来年度の花き栽培に向け、普及センター職員を講師として、やくらい土産センター、みやぎきどどんこ館にて研修会を開催しました。いずれも加美町にある農産物直売所で、花き生産にも積極的に取り組んでいます。やくらい土産センターでは令和5年16日に13名の会員がトルコギキョウの栽培技術や、来年度新規に取り組む品目としてコスモスなどについて

学びました。みやぎきどどんこ館では 1 月 23 日に 17 名の生産者が花き栽培にかかわる土壌管理の仕方について学びました。それぞれの研修会とも、活発な質疑応答と会員同士の意見交換が行われ、有意義な研修会となりました。普及センターでは、今後も地域の花き生産の支援に取り組んでいきます。



**○そらまめの栽培講習会を催しました**  
令和 5 年 2 月 20 日  
大河原農業改良普及センター



令和 5 年 2 月 7 日火曜日、村田町で今年から新しくそらまめの栽培を始めた法人の方へ向けて、栽培講習会を開催しました。当日は 3 法人の方々 9 名にご出席いただき、出席者の圃場で現地検討と大河原合同庁舎で栽培講習会を行いました。

現地検討では、現在の生育状況や培土等これからの作業方法等について生産者同士で情報交換することができました。講習会では栽培の全体の流れ、管理の重要なポイント、病虫害防除等について講習しま

した。講習終了後には、生産者の方から「栽培経験が豊富な生産者の圃場も見てみたい」との声があったことから、普及センターでは、4 月以降の実施に向けて調整を図ってまいります。

**○JA 新みやぎあさひなぶどう部会研修会が開催されました**  
令和 5 年 2 月 21 日  
仙台農業改良普及センター



令和 5 年 2 月 14 日、JA 新みやぎあさひな統括営農センターにおいて、あさひなぶどう部会「令和 4 年産ぶどうの振り返りの研修会」が開催され、部会員 18 名が参加しました。

当部会では、栽培暦に則して栽培管理が実施されているか状況を把握するためのチェックシートを作成し、記録しています。普及センターでは、このシートの記載内容の分析と聞き取り調査を実施し、研修会では、その結果からみた課題点や改善方策についての説明を行いました。特に、昨年多かった裂果への対策や出芽を揃えるための栽培管理のほか、凍害対策についても生産者の関心が高く、熱心に質問が交わされました。

また、研修会後に役員会が開催され、部会の販売戦略や今後の中期目標が検討されるとともに、出荷量の増加に向けた対応等も話し合われ、今後、総会等で部会員へ周知を図ることになっています。

普及センターでは、今後も、高品質なぶどうの生産拡大や産地形成に向けて、同部会を支援していきます。



## ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

### ○大豆実績検討会を開催しました

令和5年2月1日

栗原農業改良普及センター

1月25日（水）に栗原市若柳地区の農事組合法人ふくおかを対象として、令和4年産大豆の作柄を振り返る実績検討会を開催しました。普及センターでは、本年度から2年間、農事組合法人ふくおかを対象とし、大豆の収量・品質向上を目的として重点的に指導を行っています。

実績検討会は全3回の開催予定で、今回は2回目の開催となり、大豆の摘芯技術と雑草防除をテーマに検討を行いました。

農事組合法人ふくおかでは、ミヤギシロメを栽培していますが、蔓化・倒伏による、収量・品質低下が問題となっています。摘芯技術は大豆の主茎を切断し、生育を制御する技術で、蔓化・倒伏の抑制が期待できます。令和4年は生育が旺盛なほ場を中心に摘芯を行った結果、蔓化・倒伏を抑制することができました。

また、雑草防除については、ほ場巡回で見られた雑草を確認し、効果的な防除体系について検討しました。ほ場毎の雑草に対して、除草剤の種類や散布適期に関する理解を深めることができました。

来月には3回目の検討会開催を予定しており、次作に向け、さらなる収量向上を目指していきます。



### ○JA古川ブランド米研究会が開催される

令和5年2月3日

大崎農業改良普及センター

JA古川ブランド米研究会は古川産米のブランド化を目指して、「ささ結（東北194号）」・「ササニシキ」の良食味米栽培技術の向上に取り組んでおり、大崎の米「ささ結」ブランドコンソーシアムが主催する食味コンクール「ササニシキ系「ささ王」決定戦」へも積極的に参加し、令和4年度には会員が「ささ王」の栄冠に輝いています。

新型コロナの感染拡大により活動を縮小していましたが、令和4年度より良食味米の栽培の基本である土づくりをテーマに活動を再開しました。会員の水田ほ場の土壌分析を実施し、大崎市在住で元東北大学教授の南條正巳氏をアドバイザーに迎え、分析結果の解説や施肥の改善方法について指導を受けました。会員からは、全国の様々な新品種に対抗する

ためには「ブランド力」が必要で、データに基づくしっかりした栽培で良食味米生産を継続していきたいとの意欲がうかがえました。普及センターは、米のブランド化推進について引き続き支援を行っています。



### ○飼料用米・WCSの導入に関する実績検討会を開催しました

令和5年2月13日

石巻農業改良普及センター

1月31日に長面地域（石巻市）の大規模土地利用型法人と関係機関を対象に、令和4年にプロジェクト課題で取り組んだ活動成果を実績検討会で報告しました。長面地域は、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた地域で、復旧後の農地における収量の低下が課題となっています。当所からは、飼料用米の収量向上を図るため、堆肥と速効性及び緩効性肥料の組み合わせが収量性や土づくりの観点から望ましいということ、大豆後の乾田直播栽培により低コスト化を図れること等の報告を行いました。

意見交換では、対象法人から、「堆肥施用効果を実感している」、「肥料高騰に対応するため堆肥施用を積極的に利用して、経費を抑えた肥料設計を行いたい」等の意見が出されました。その他、WCSや飼料用米生産の課題、スマート農業等の今後の地域農業の発展に関した活発な意見交換が行われました。普及センターでは石巻地域における持続的な水田農業の実現を目指し、これからも支援を行っています。



### ○JAみやぎ登米環境保全米講演会が開催されました

令和5年2月28日



## 登米農業改良普及センター



令和5年2月22日、登米市のホテルサンシャイン佐沼にて、JAみやぎ登米環境保全米講演会が開催され、組合員など約90人が参加しました。講演会に先立ち、「飼料用米多収コンテスト表彰式」として、令和4年度に飼料用米栽培で多収を収めた生産者の表彰が行われました。講演会では、株式会社神明から日本米の輸出をめぐる動向と今後の取組について、東北農政局から「みどりの食料システム戦略」の概要や有機農業の推進について情報提供いただきました。その後、令和4年度に取り組んだ「グリーンな栽培体系」の報告として、普及センターより、検証した栽培体系が現行の環境保全米とほぼ同等の生育経過を辿り、同等の収量を見込めることを説明しました。併せて片倉コープアグリ株式会社より、今回検証したペースト肥料の、プラスチック削減効果をはじめとした環境負荷軽減効果について説明いただきました。最後に、稲作部会連絡協議会の久保副委員長が「サステナ宣言」を読み上げ、JAみやぎ登米として、環境に配慮した持続可能な農業を実践していくことを宣言し、会は終了しました。普及センターでは、今後も、みどりの食料システム戦略に沿った環境配慮型農業の実践を支援してまいります。

## ⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「蔵の華」研修会を開催しました  
令和5年2月8日  
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市廿一地区の清流「蔵の華」廿一会では、酒造好適米「蔵の華」を栽培し、市内の蔵元2社に出荷しています。

研修会は2月4日に、「蔵の華」の出荷先である株式会社角星の白山製造場を会場に、会員14名が参加して開催され、今後の栽培やブランド化の方向性について、株式会社角星との意見交換や酒造施設見学を行いました。

意見交換では、株式会社角星代表取締役社長齊藤嘉一郎氏から、廿一会の「蔵の華」についての高い評価をいただくとともに、会員からも、生産継続や販売拡大に向け積極的な意見が挙げられました。酒造会社と連携した今後の方向性について、要望に応じた増産の取組や、さらなる認知・販売拡大に向けたPR活動として、都市住民を呼んだ田植え体験等により地域おこしを展開するといったアイデアが挙げられ、次年度に向けた増産の意欲を共有することができました。

意見交換後は、旧気仙沼市白山小学校を改装した製造場の見学を行いました。齊藤社長による酒造工



程や施設の説明をおし、求められる酒米の品質について理解を深めることができました。

## ⑦地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○仙台地区鳥獣被害対策研修会が開催されました  
令和5年2月2日  
仙台農業改良普及センター

令和4年度仙台地区鳥獣被害対策研修会が令和5年1月11日に仙台合同庁舎で開催され、管内市町村の鳥獣害対策担当者が出席しました。

研修は、合同会社東北野生動物保護管理センターの小野田泰士研究員を講師に、「人口減少社会における鳥獣被害対策とICT」と題して行われました。

基本的な鳥獣害対策に合わせて、省力的な対策ができる方法として、わなに動物がかかったら知らせてくれるICT機器の紹介や、これを使った場合に気をつけることなど、ICT機器の現状と課題等についてもお話をいただきました。

参加者は、研修に先立って開催された担当者会議を含め、互いに情報交換するとともに研修講師へ質問し、各市町村の鳥獣害の現状と対策について活発に情報交換がなされました。



### ○道の駅大谷海岸直売組合で研修会が開催されました

令和5年2月28日  
気仙沼農業改良普及センター



令和5年2月16日に気仙沼市大谷公民館を会場に道の駅大谷海岸の農林水産物及び加工品等を出荷している直売組合の研修会が開催されました。

研修会には、道の駅大谷海岸の社長、事務局、直売組合の組合長、役員、総勢12名が参集しました。

研修会の講師は、全国の道の駅や農産物直売所の立ち上げから経営改善までのコンサルを行っている、有限会社ベネットの青木隆夫代表を迎え、道の駅大谷海岸の良い所、改善が必要な所、お手本となる全国の事例について1時間講演してもらい、講演後、道の駅事務局や直売組合役員からの質疑応答をじっくりと行いました。

青木講師から、道の駅大谷海岸はアニメ映画「すずめの戸締まり」に登場することから、これから数年は聖地巡礼の舞台となるので、映画内で紹介された飲食メニューを積極的にPRする他に、インスタ映えする「とがったメニュー」を考案して、新規顧客やリピーターを獲得するようにと提案され、参加者全員が大きくなずいていました。

質疑応答では、直売組合の役員から、道の駅事務局への不満なども出されましたが、青木講師が全国の事例を交えながら、定例会の開催や商品の配列方法などについての改善アドバイスがありました。

コロナウイルス感染拡大防止のために、外出を控える方々が多い状況のなか、道の駅大谷海岸の売り

上げは前年を上回っていることから、急激な販売不振がおきることはないものの、これからは「映える」を意識して店舗のデザイン、飲食メニュー、お土産品を考えていかないと淘汰されてしまうと激励があり、参加者は良い刺激をもらった様子でした。

普及センターでは、農産物の安定生産や新規品目の提案などを行いながら、道の駅大谷海岸を支援していきます。

### ○大島ウエルカム・ターミナルで販売組合の研修会が開催されました

令和5年2月28日  
気仙沼農業改良普及センター

令和5年2月16日に気仙沼市大島ウエルカム・ターミナルを会場に大島ウエルカム・ターミナル地場産品出荷・販売組合（以下大島WT販売組合と略す）の研修会が開催されました。

研修会には、大島WT販売組合の役員12名が参集しました。

大島WT販売組合では、農産物等直売所機能強化支援事業を活用し、8月から月1回の定例会を行い、経営改善に必要な取り組みについて話し合ってきました。

事業を業務委託された株式会社東北農都共生総合研究所の片岡所長から、定例会で話し合ってきた内容をとりまとめた、「経営改善に向けたアクションプラン」の内容について報告してもらい、役員全員一致でこのアクションプランを令和5年度から取り組むこととなりました。

この報告会終了後、有限会社ベネットの青木隆夫代表から「大島WT 課題と今後の対策」と題した講演をしていただきました。

講演の中では、小規模な直売所が売り上げを伸ばすための手段、イベントによる集客の事例、POPによる宣伝効果など、多くの改善策を提案していただきました。

大島WT販売組合では、大島特産のユズや大島カブを使ったオリジナル加工品の開発を始めており、片岡所長のまとめたアクションプラン、青木代表の提案を活用しながら新商品の開発と販売を目指していくと一致団結していました。

普及センターでは、農産物の安定生産や商品開発の支援などを行いながら、大島WTを支援していきます。



## ⑧要請・緊急対策、その他

### ○令和4年度第2回美里地域農業普及活動検討会を開催しました 令和5年2月28日 美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは、農業者等のニーズに対応し、より高い成果を創出する普及指導活動を行うため、活動計画とその活動実績、目標の達成状況等について、外部委員の客観的な視点から評価をいただき、次年度以降の普及指導計画の改善を図るために普及活動検討会を年2回開催しています。

令和4年度第2回目の検討会を、普及活動検討委員6名に出席いただき2月3日に開催しました。

今回は、令和4年度普及指導計画の中から、今年度で完了する2つのプロジェクト課題の活動について、現在策定中の令和5年度普及指導計画からは、普及指導方針や、新規課題を含めた3つのプロジェクト課題、重点活動の計画について検討いただきました。

委員からは、「豪雨災害などの被害があった中、継続的にプロジェクトに取り組んだことで生産者の栽培技術が向上し、次年度の作付拡大に繋がっている。」といった評価や、「プロジェクト課題活動を通して得られたノウハウを今後の普及活動に活かし、地域で波及して欲しい。」という要望が出されました。

普及センターでは、今回の普及活動検討会でいただいた評価や意見を踏まえ、より成果の上がる普及活動に取り組んでまいります。



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.193

発行日:2023年3月10日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp